

# 定期上映会 戦傷病者の証言～妻たちの労苦編～

戦傷の夫を支え続けた妻や、夫婦の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

上映期間：2022年5月10日（火）～7月10日（日）

上映時間：10：00～17：00

## 開墾・切り開いた人生 ～小学校教員から軍人の妻へ～

毎時0分  
より上映

昭和18年ニューギニアにて米軍の艦砲射撃で右腕を負傷。内地還送の後、宮崎県都城で現場復帰。落下傘部隊の訓練を受けて沖縄に向かう準備をしていた時に終戦。「終生夫に従うこと」と有無を言わせない厳格な夫。右腕負傷の後遺症として右腕の完全な屈伸不能と痺れがあった。93歳で右足首に悪性腫瘍ができて切断。義足を装着。装具士に90歳以上では初めてだと言われた。戦争については一切言いたがらなかった。

## 二人で一人、傷痍軍人の妻として

毎時19分  
より上映

昭和14年3月入営、満洲独立守備隊第六大隊に配属され満洲へ。8月、ソ満国境ノモンハンで部隊内の決死隊編成に志願、敵軍戦車を爆破し、その破片を全身に浴びて視力も失う。二度目の手術で左眼の視力やや回復。17年、結婚。妻は夫の目となり手足となる覚悟で結婚。いつでも生計を支えられるよう結婚当初から洋裁を学んだ。終戦後、夫は大阪に職を得て夫婦で転居。この頃、夫の顔、肩、胸から受傷時の体内残留破片が出るようになった。いつ失明するか不安な毎日、妻は再び夜間の洋裁学校に通い師範の資格を得た。人生終わりと思ったこともあったが、妻の支えで生きて来られたと語る夫。

## 障害を超えたおおらかさ

毎時30分  
より上映

昭和16年4月、横須賀海兵団入団。17年6月、駆逐艦「荒潮」乗艦中、敵の機銃弾を右足に受ける。病院船「朝日丸」に収容されたが、ガス壊疽のため大腿部から切断。内地の海軍病院で療養後、18年3月、兵役免除となり帰郷。元の小学校に復職するも体育の授業に困り退職。翌年、東京高等師範学校に特設された「傷痍軍人中等教員養成所」に入学、数学教師として中学校に奉職。25年結婚。妻も教職に就き多忙な中、夫のため、特別仕立ての手製の下着を作り続けた。

## 傷痍軍人の妻として・・・

毎時39分  
より上映

傷痍軍人の妻三人が労苦を語る鼎談。幼い娘二人を残して夫は他界。相談に行った職業安定所で訓練生募集中との話を聴き経理部門に入所。資格取得し就職に役立てた妻。夫の傷病、息子の死亡、そして孫娘の病気入院など重なる不幸を乗り切った妻。皆さんそれぞれが体験した生活の労苦を語る。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。

◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。